



平成二十八年度松山市立新玉小学校五年生の取り組み

(新玉小5年生担当教員…友松恭子先生・玉井淳博先生・清家和子先生)

本プログラムは、平成二十八年度、新玉小学校五年生（約九十名）と共にを行った授業を基に策定された。この授業では、散策集の「中の川・石手川堤コース」を選んで、そこで児童が詠んだ俳句から『平成こども散策集』を作成した。さらに、新玉校区でも、四つの散策ルート（おしゃれコース、お城下コース、新玉歴史の旅コース、生石街道コース）を選定し、各ルートにおいて、自分達が詠んだ俳句や描いた絵、地域の歴史や文化について調べた内容を基にして『平成あらたま散策集』を作成した。児童が作った『散策集』は、地区の公民館や坂の上の雲ミュージアムにおいて展示し、地域の方々に広く市民や観光客に紹介した。

今回のプログラムを通じて、子ども達は、子規の気持ちや彼が見た風景を想像しながら松山のまちを散策し、自分達の俳句を作っていた。それと共に、松山のまちや子規と自分自身とのつながりを感じ取り、そうした松山のまちや子規、そこで育まれてきた俳句文化への愛着や誇りが徐々に育まれてきた様子が窺えた。

授業の様子



まち歩きの様子



まち歩きの発表会の様子



俳句会の様子



授業参観での地区散策集発表の様子



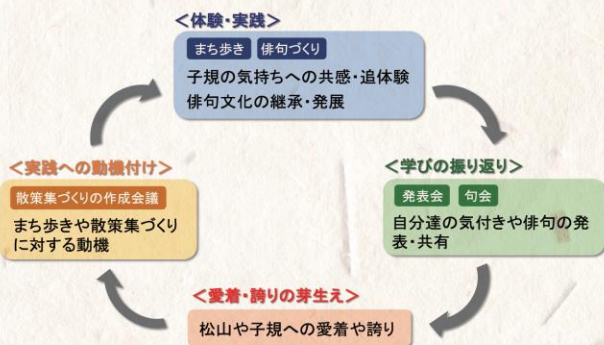


児童が詠んだ俳句（一部抜粋）

「石手川 親子のとんぼ おにごっこ」（井上 輝起さん）
 「小鳥鳴き 観音像と 観覧車」（横山 星彩空さん）
 「子規も見た 線路もさびる 秋日和」（谷藤 沙樹さん）
 「秋風に ゆられておどって まんじゅしゃげ」（田井野 百花さん）
 「蓮福寺 ぞろぞろ入る 人と秋」（岡田 実優さん）
 「子規の跡 秋風流れる 大通り」（村口 心香さん）
 「稲の花 ビルに変わった 蓮福寺」（藤原 昂生さん）

新玉小の取り組みにおける「学び」のプロセス

本プログラムを通じて、子ども達は、①まち歩きや俳句づくり等の体験を通じて子規の気持ちに共感し（ハ体験・実践）、②全体の発表会や句会において自分達の気付きや俳句を発表・共有化する中（ハ振り返り）、③松山や子規への愛着や誇りが育まれていき（ハ愛着・誇りの芽生え）、④そのことが地域におけるまち歩きや散策集づくりの更なる実践につながる（ハ実践への動機付け）という、地域文化の発展・継承に主体的に関わる「学び」のプロセスを経ている様子を確認することができた。



※参考文献：柳原捷吾「地域文化の真正性と地域学習に関する実践研究―新玉小学校を対象とした現代の『散策集』編纂の取り組み―」平成二十八年度愛媛大学大学院修士論文（指導教官・羽鳥剛史）